



学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/byobugaura/>

5 月 号
令和4年4月28日
横浜市立屏風浦小学校
校長 海老原 眞

多様性を認め、楽しむ

校長 海老原 眞

上校庭の桜の木々には、陽光のもと新緑がまぶしく輝いています。学校の池では、たくさんのおたまじゃくしが泳ぎ、春先に花を咲かせていた梅の木では、着実に実が大きく育ってきています。これから迎える夏に向け、学校のいたるところで生きる命の力強さを感じ取ることができます。

4月22日(金)には、今年度初めての授業参観が行われました。お天気にも恵まれ、教室の外からの参観とはなりましたが、まずは多くの保護者の方々に年度当初の子どもたちの様子をご参観いただけたこと、本当にうれしく感じております。今後、コロナウィルスの感染状況が落ちついた際には、ぜひ子どもたちの学習に向かう姿をより身近に感じられる場所でご参観いただきたいと考えておりますので、ご家庭においても感染防止への取組を引き続きよろしく願いいたします。

さて、普段から授業の様子や生活の様子を観ていると、子どもたちの感じ方や考え方は、本当に多種多様であることに驚かされます。例えば、算数で答えを求める場面では、一つの方法だけでなく、既習の学習から他の方法を考え出したり、学級会の場面では、相手の意見を聞きながら、よりよい方法を導き出すために、違うやり方を認め合ったり……。そのような姿からは、新たなクラスとしてスタートし、いろいろな経験や価値観が混在する学期始めの今だからこそ、お互いの多様性を感じ、認め合える力を高める大きなチャンスなのではないかと改めて感じます。そして、子どもたちは、今までの経験や体験、生活環境などが違うことから生まれる、多様な考え方や感じ方を認め、高め合える雰囲気の中で育つことで、きっと広い心と自分への確かな自信を身に付けていくのだと思います。

今後の早くも複雑な社会の変化に対応しながら過ごしていくために、今、日本の社会は個性を大切に、お互いの多様性を尊重しようと努めています。多様性(ダイバーシティ)とは、人間についていえば、性別・年齢・国籍などの『属性』に関する多様性と、価値観やライフスタイル、考え方、感じ方などの『思考』に関する多様性があると言われております。そう考えると、小さな社会として形成される学校は、豊かな多様性を認め合えるよい経験の場であるとも言えます。国語の教科書にも掲載され、多くの人知っている詩人金子みすゞさんが、詩『わたしと小鳥とすずと』で、『みんなちがってみんないい』と詠ったように、多様性、つまり違いの良さを知り、認め、楽しむことこそ、これから生きる未来の社会ではとても大切なものだといえるのではないのでしょうか。『違いがあるって楽しい!面白い!』と感じられる学校を目指して……今後も着実に歩みを進めていきます。